

所内研究報告第63号

2016年3月31日

国立社会保障・人口問題研究所 2014～2016 年度人口問題プロジェクト研究

長寿化・高齢化の総合的分析及び
それらが社会保障等の経済社会構造に及ぼす
人口学的影響に関する研究

— 第2報告書 —

まえがき

わが国の平均寿命は 20 世紀後半に著しい伸長を遂げ、2014 年には男性 80.50 年、女性 86.83 年と、世界有数の長寿国となった。「日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）」によれば、平均寿命は 2060 年には男性 84.19 年、女性 90.93 年（死亡中位仮定）に達すると推計されている。また、長寿化と同様、わが国の高齢化についてもその水準と進行速度は世界的に注目をされている。高齢化の水準として一般的な指標である総人口に占める 65 歳以上人口の割合をみると、1970 年に 7%を超えてから急速に上昇しており、2014 年の 26.0%から 2060 年には 39.9%に達すると推計（出生中位・死亡中位）されている。このように、わが国は世界の中でも最も高齢化の進展が速い国の一つである。

このような、世界にも類を見ない長寿化・高齢化の進展について、そのメカニズムと背景、また、これらが日本社会に与える影響を的確に捉えるためには、死亡データベースの構築とそれに基づいた人口学的分析を中心としつつ、社会・経済面や医学・生物学的視点などに基づく学際的アプローチが不可欠である。また、寿命に大きく影響を与え、生存のクオリティ（QOL）の大きな要素である健康、ならびに社会保障を中心とした経済社会構造に及ぼすインパクトについても分析を行う必要がある。

こうした状況の中、本研究所では先行となる研究プロジェクト「わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究」（平成 23～25 年度）において、わが国の長寿化に焦点を当て、わが国初の試みである「日本版死亡データベース（Japanese Mortality Database、以下 JMD）」の開発を中心としながら、人口学的・学際的分析を進めてきた。本研究プロジェクトは、この先行プロジェクトの成果をさらに発展させ、長寿化・高齢化に関して総合的に分析するとともに、それらが社会保障等の経済社会構造に及ぼす人口学的影響に関して研究することを目的とするものである。

本研究プロジェクトは主に、①データベース（JMD）の拡充・発展、②健康・長寿・高齢化に関する人口学的分析、③長寿化・高齢化の総合的分析、④長寿化・高齢化の社会保障等に対する人口学的影響評価の 4 つの柱からなる。プロジェクトメンバー（所内・所外委員）に加え、厚生労働省で統計や数理の実務に携わっている方々や民間企業のアクチュアリーなど専門家の方々に外部協力者として参加していただいていることも本プロジェクトの特色の一つである。本年度はプロジェクトの 2 年度目であり、引き続きこれら①～④の研究課題に取り組むとともに、先行プロジェクトから通算して 5 年目にあたることから、これまでの研究成果の報告を中心としつつ、わが国における今後の死亡・健康研究に関して幅広い観点から検討・展望を行うことを目的として、平成 28 年 2 月 3 日に「長寿化・高齢化プロジェクトワークショップ」の開催を行った。ワークショップには、研究者、政策担当者、生命保険会社などの実務者、報道関係者など報告者を含め総勢 76 名の参加を得たところであり、死亡・健康研究への関心の高さが改めて浮き彫りとなったといえよう。本報告書は第 2 年度の研究成果とこのワークショップ関連の資料を取りまとめ、「第 2 報告書」として刊行するものである。

本報告書は 3 部構成になっており、第 1 部（総論）で研究の概要を述べ、第 2 部（各論）には研究班員による個別論文を収録した。また、第 3 部には付属資料として、本年度の研究会においてご報告を頂いた、三菱 UFJ 信託銀行年金コンサルティング部の中込信之氏、及び尚美学園大

学芸術情報学部情報表現学科華山宣胤教授による、研究報告のプレゼンテーション資料、及びワークショップ関連の資料を収載した。

本研究プロジェクト実施に当たっては本研究所内外の多くの方々のご協力を得た。とりわけ本プロジェクトの研究会において有益なご教示をいただいた中込信之氏、華山宣胤教授、また、ワークショップに討論者としてご参加頂いた国民年金基金連合会弓場美裕氏、報告者としてご参加頂いた PwC あらた監査法人井川孝之氏、住友生命高橋佳宏氏に厚く御礼申し上げる。

2016年3月

国立社会保障・人口問題研究所

「長寿化・高齢化の総合的分析及びそれらが社会保障等の
経済社会構造に及ぼす人口学的影響に関する研究」

プロジェクト

(所内委員)

石井 太 (人口動向研究部長)

宮田 智 (政策研究調整官)

林 玲子 (国際関係部長)

泉田信行 (社会保障応用分析研究部長)

別府志海 (情報調査分析部第2室長)

山本克也 (社会保障基礎理論研究部第4室長)

是川 夕 (人口動向研究部主任研究官)

大津 唯 (社会保障応用分析研究部研究員)

(所外委員)

齋藤安彦 (日本大学教授)

佐藤龍三郎 (中央大学客員研究員)

菅原友香 (上智大学助教)

鈴木隆雄 (桜美林大学教授)

高橋重郷 (明治大学兼任講師)

橋本英樹 (東京大学教授)

堀内四郎 (ニューヨーク市立大学教授)

ジョン・ウィルモス (国連人口部長)

フランス・メレ (フランス国立人口研究所)

目 次

第1部 研究概要

長寿化・高齢化の総合的分析及びそれらが社会保障等の経済社会構造に及ぼす 人口学的影響に関する研究 ―第2報告書―	3
--	---

第2部 研究論文

日本版死亡データベースの提供年次拡大に関する検討 ―届出遅れの補正について―	石井 太 ... 11
日本の健康寿命研究の概要および健康寿命の男女差について	林 玲子 ... 25
Assessment of the disability indicator available through IPUM-International for the calculation of healthy life expectancy	林 玲子 ... 33
傷病と健康からみた通院期間の分析:2001, 2013年.....	別府志海・高橋重郷..... 45
高齢期の健康状態等の出生コホート効果・年齢効果の検討	泉田信行 ... 63

第3部 資料

(本年度研究会報告資料)

年金アクチュアリーと長寿リスクへの取り組み	中込信之 ... 73
Estimating the Upper Limit of Lifetime Probability Distribution, Based on Data of Japanese Centenarians	華山宣胤 ... 79

(本年度ワークショップ報告資料)

- ・イントロダクション……………石井 太 …… 93

セッション1 長寿化・高齢化分析のためのデータベース開発

- ・日本版死亡データベース（JMD）の現在と今後の展開……………石井 太 …… 95

- ・わが国における長期時系列死因別死亡統計の構築に向けて
…………… 大津 唯・是川 夕・石井 太 …… 99

セッション2 健康寿命、医療と健康・長寿化

- ・疾病構造と平均受療期間の人口学的分析：1999～2011年
…………… 別府志海・高橋重郷…………… 109

- ・高齢期の健康状態等の出生コホート効果・年齢効果の検討……………泉田信行 …… 115

- ・討論……………林 玲子 …… 119

セッション3 長寿化・高齢化と年金・生命保険

- ・The Reform of Mutual Aid Associations in Japan: Civil Service Employee
Pension Reform in 2012……………山本克也 …… 121

- ・長寿・死亡リスクの異質性に関する研究……………井川孝之 …… 129

- ・長寿化・高齢化と生命保険アクチュアリー……………高橋佳宏 …… 135